

研究主題
思いやりの心もち、
自分も他の人も大切にできる児童の育成



校長あいさつ

校長 湊 仁

本校は、開校147年目を迎える歴史の長い学校です。子供同士、自然に関わり仲良く過ごしています。上の写真の様に、6年生は1年生にとっても優しく接しています。1年生は6年生が大好きです。子供たちは素直で元気な子が多く、たてわり班活動がととても盛んです。毎月行われるたてわり班活動では、6年生が企画・リードして、1年生から6年生までが楽しめるゲームや遊びを行っています。また、コミュニティ・スクール指定校として、4年目を迎えました。地域を交えての授業が盛んで、地域教材や伝統文化を教科や領域、行事などと関連付けながら、地域の方をゲストティーチャーとしてお迎えしたり、交流したり、地域を教材とした校外学習にも積極的に取り組んだりしています。

近年は、本校の教育目標の一つ「思いやりのある子」を重点として、相手を大切に、自分も大切にしようとする子供の育成に力を注いでいます。しかし、コロナ禍における影響は大きく、様々な制約は本校の特色である地域を交えた学習活動にブレーキをかけてきました。しかし、本年度は、感染症対策をしっかりと講じながら積極的に活動しようという方針のもと、これまで築き上げてきた状態に戻りつつあります。

そのような中、令和3年度からは、東京都教育委員会人権尊重教育推進校として、人権教育の研究を進めています。研究主題「思いやりの心もち、自分も他の人も大切にできる児童の育成」を掲げ、教職員一同、今まで以上に人権感覚、人権意識を高くもち、人権教育の研究に邁進しております。ここに1年目の取組をリーフレットとして報告し、保護者、地域、関係機関の方々に紹介するとともに、御指導、御鞭撻をいただけたら幸いです。

令和3・4年度
福生第二小学校 研究構想図

学校教育目標 「よく考える子」
「思いやりのある子」(重点目標)
「体を大切にする子」

目指す児童像

- ・相手のことを意識したあいさつを行う。
- ・自己肯定感を高め、自信をもつ。
- ・自分や人の良さに気付く。
- ・良好な人間関係を形成する。
- ・学力の向上につなげる。

育てたい資質・能力

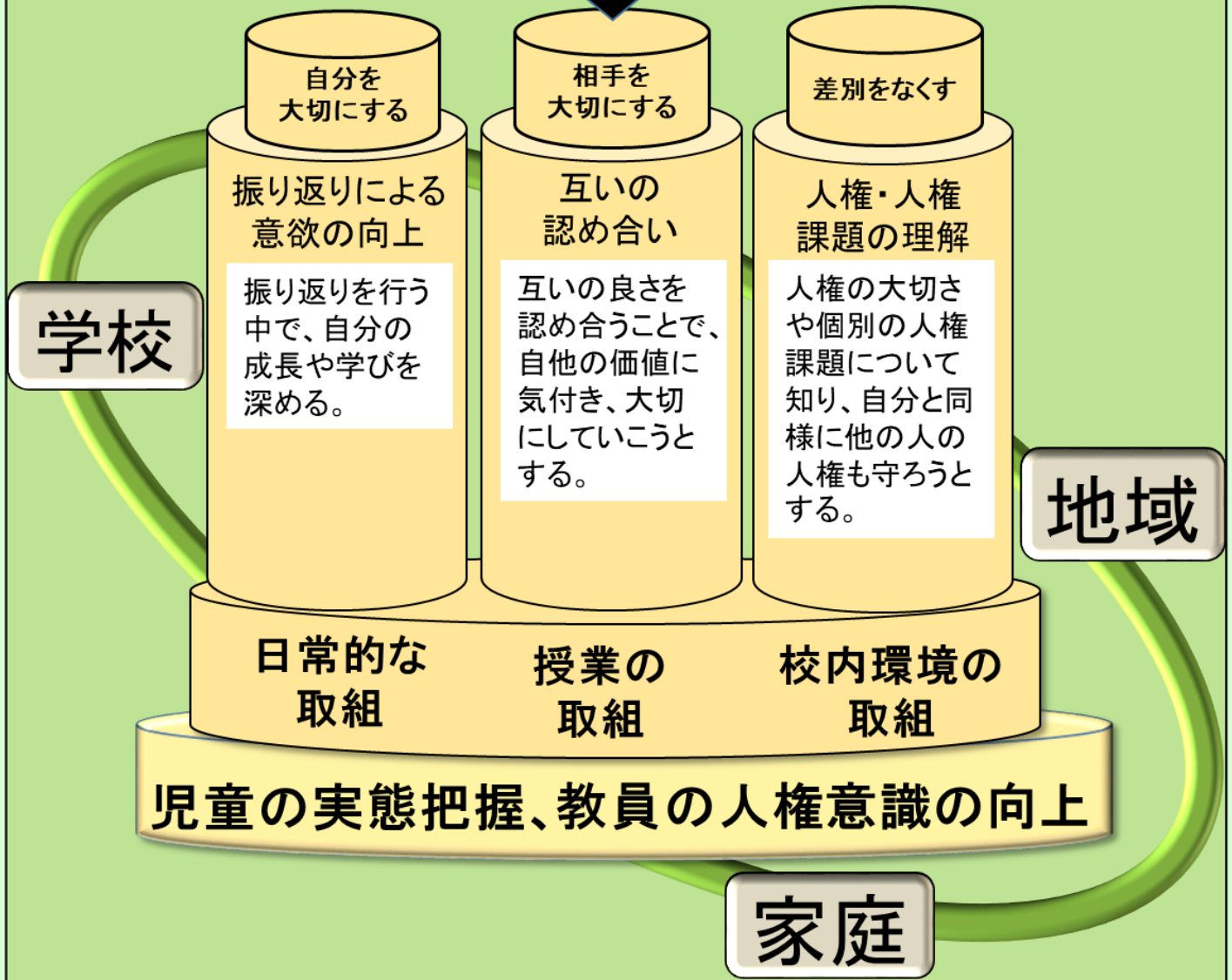
知識的側面
人権課題とその解決のための知識 等
価値的・態度的側面
自己肯定感と他者の人権を尊重する主体的・実践的な態度 等
技能的側面
他者の痛みや感情の共感力、コミュニケーション力 等

研究主題

思いやりの心を持ち、自分も他の人も大切にできる児童の育成

研究仮説

全教育活動を通して、自分も他の人も大切にできる取組や、差別をなくす取組を計画的・重点的に実施することで、児童が思いやりの心を持ち、自分も他の人も大切にできるようになるのではないかと。



低学年分科会

第1学年：特別活動

1 題材名 [普遍的な視点からの取組]

「見つけよう！つたえよう！ じぶんのよいところ ともだちのよいところ」

2 ねらい

クラスの友達のよいところの見付け方を考えさせ、自分の目標を決めることができる。

3 人権教育の視点

お互いのよいところを見付ける活動を通して、自己についての肯定的態度を養う。

4 学習活動

クラスの友達のよいところを知るための方法を考えた。そして話型を活用し、班の友達と互いによいところを伝え合った。その後、友達のよいところを見付けるために、自分にできることは何かを考えた。

5 指導上の工夫と成果

- (1) 自分のよいところを見付ける活動として、自分の頑張っているところに目を向けさせ、付箋に書かせた。そして、教室の「にっこにこコーナー」に貼りためていくことで、自分のよいところをたくさん見付け、自己肯定感が高まった。
- (2) 友達のよいところを見付ける活動として、班の友達によいところを聞き、伝え合った。互いのよさを認め合うことで、自分も他人も大切にする意識が芽生えた。
- (3) 話し方・聞き方のカードを児童の手元に用意することで、自信をもって、話し合うことができた。



すごいね！

いいところがたくさんあるね！

中学年分科会

第4学年：総合的な学習の時間

1 単元名 人権課題「障害者」に関わる取組 [普遍的な視点からの取組]

「みんながくらしやすいまち」

2 目標

気付きや感想を友達と交流したり、ゲストティーチャーの思いや願いに気付いたりしたことを生かして、課題を設定することができる。

3 人権教育の視点

障害者との交流や調べ学習等を通して、障害がある人もない人も思いやりをもって支え合うことができる共生社会を実現しようとする意欲や態度を育てる。

4 学習活動

視覚障害者との交流を振り返り、個人個人で学習課題を設定する。その後グループや全体で意見を交流し、自分の学習課題を見直し、必要であれば再設定する。

5 指導上の工夫と成果

- (1) 授業中の発言や児童の振り返りを教師が価値付けることで、学習への意欲を高め、自己肯定感を高めることにつながることができた。
- (2) 全体での発表や交流の後に、教師が肯定的なコメントを伝えたり、児童が拍手や賞賛の声かけを行ったりすることで、互いの考えを大切にすることにつながった。



そういう考え方もあるね！

